

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270301245		
法人名	有限会社ケア・ユニーク		
事業所名	リビング・ホームおおつか		
所在地 (電話番号)	〒031-0833 青森県八戸市大字大久保字大塚17-1055 (電話) 0178-32-3511		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 2月 7日	評価確定日	平成 20年 3月 27日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 12月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,400 ~ 冬期13,800 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青森労災病院、八戸平和病院、たかのはし歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年12月に丘陵地にある松林に囲まれた静かな一軒家として新築・開設された。
建物はバリアフリー化され、廊下は2間半あり広々として安心感を与えている。運営理念を随所に掲げ、全職員は理念を意識して取り組まれている。入居者の皆様が安心して、理念である「普通の暮らし」が出来るよう、一人ひとりの個性を活かし、尊重してサービスの実践をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新築・開設された玄関は草花や表札等で、明るく家庭的な雰囲気づくりに配慮されています。職員の採用時の研修のみで、その後の研修が行われていないので、計画的な研修の実施を期待したい。地域との交流がなされていないので、今後の取り組みに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価の意義・目的を理解し取り組んでいる。ミーティングや会議等でその結果についての話し合いが行われ、改善点を実施につなげる努力がなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には市担当者・町内会長・民生委員・家族の方が参加し、話し合いの内容・結果は全職員へ伝達され、サービス向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族には毎月便りを送付し、特変時や金銭についても連絡している。又、面会時等に意見・要望を引き出すよう努め、運営推進会議で解決に向けた取り組みが報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設間もない事と冬季という事で、まだ地域住民との交流が図られていない。春以降、地域の一員として行事への参加を計画中であり、今後期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が「普通の暮らし」ができるよう、人格の尊重・家族・医療機関との連携強化に努め、職員はケアに活かすようにしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を話し、理解してもらっている。また、ミーティング・会議等で話したり、掲示をしたりすることで、意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	既に市担当者・町内会長・民生委員の方々とのつきあいは始まっているが、まだ新築・開設から間もないこともあり、一般の地域住民との交流は殆どない状況である。	○	地域の一員として春以降、地域行事への参加を計画中であり、今後を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全職員で行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。外部評価もミーティング等で話し合わせ、改善点を実施につなげる努力をなされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での内容・結果は全職員に報告され、話し合いをしてサービス向上に努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市介護保険課・町内会長・民生委員等との連携が図られている。更に市生活福祉課職員の来園も行われている。市の担当者とは相談事や情報提供等で連絡を取り合っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者・ケアマネは地域権利擁護事業・成年後見制度の研修を受けている。内容については職員に伝達し、活用を図っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は高齢者虐待防止関連法についての研修を受け、職員への伝達を行うなど、虐待の防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、重要事項説明書で丁寧に説明され、同意を得ている。又、退居を含めた対応についても詳しく説明されている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には毎月一回便りが送付され、特変時には電話連絡されている。金銭については、毎月一回領収証添付の上報告されている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に、要望等を引き出すようにし、また問題処理の説明も行っている。運営推進会議で解決に向けた取り組みについて報告している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移転後の事業所では、異動の例がまだないが、以前にやむを得ない異動等があった際には、丁寧に引き継ぎされ、利用者にもきちんと紹介している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・ケアマネの研修は計画的に行われているが、職員に関しては、採用時の研修のみで、段階に応じた研修計画は立てられていない。	○	今後は職員の研修の機会を計画的に確保されることを期待します。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム協議会、管理者・ケアマネは地域の同業者との交流会に参加し、その結果を会議等で職員に伝達している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と十分話し合い、本人の安心と納得を得て利用されている。これまでの生活歴・職歴・性格等の情報を全職員が共有し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、日常的に会話を多くし、共に行動し共に支えあうようにしている。特に一日3度の食事作りには積極的に参加されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、面談・毎日の本人との会話よりその人の思いや希望を引き出し、ミーティング等で共有されている。その都度記録されケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、面会時、日頃のかかわりの中で気づき・意見・要望等を聞き、利用者本位の暮らしを介護計画に反映させるようにしている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回のモニタリング及び状態に変化があった場合はその都度、全職員がカンファレンスに参加し、現状に即して介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・本人の要望、利用者の状況変化等実情に即した臨機応変な対応が、事業所の機動性を生かしてなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人のかかりつけ医への受診となっている。本人の健康面での心配がある場合には、家族と話し合い受診・通院方法について合意されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、重度化・終末期のあり方について話し合い、同意を得られている。急変時対応についても同様であり、その情報は全職員が共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の情報保護や漏洩防止については、ミーティング等や日々のかかわりの中で、全職員に意識の統一を図っている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの状態や希望、ペースに配慮しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好きなものを完食して頂きたいと考え実施されている。一緒に準備や片付け等一人ひとりとかかわりを持ち、楽しい雰囲気ですべてを楽しんでいる。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には週2回、入浴日としているが、拒否等があった場合、柔軟に対応されている。なるべく利用者の希望やタイミングに合わせて工夫されている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備、茶わんぶき、片付け等の本人の出来る仕事を行ってもらっている。また、受診の帰り、スーパーでの買い物と一緒にいる。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>丘陵地の一軒家という立地条件であるが、天気・本人の状態に合わせて、一人ひとりの希望時に外出・買い物等の支援がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束をしないケアを実践しているという意識を持ち、ミーティング等で確認し常に安全に気をつけて徹底して支援している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようにされている。外出を希望すれば、職員が見守り、付き添いをし事故防止に努めている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年12月の開設であるが、まだ避難誘導訓練・通報訓練が行われておらず、今後の課題である。	○	年2回の避難訓練、避難経路の確認、消火器の取扱い等消防署の協力を受け行い、その記録を整備し、更に地域住民の協力体制を日頃より築くことを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた一人ひとりの栄養バランスや摂取量は常にチェックされ記録されている。飲水量の記録はないが、定期的に補給されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルが整備されており、全職員が予防・対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは広さ・採光等配慮されている。又、意識して季節感を採り入れ、えんぶり、ネズミ年のポスターが飾られ、利用者にとって安心できる場所となっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者9人中、5人の方は移転してこられた。茶わん・箸・湯呑み・小物入れや布団・仏壇等持ち込まれ、居心地よく暮らされてる。</p>		

 は、重点項目。